

第20期第14回常任理事会議事録

日時 昭和54年12月25日(火) 15.50~17.10

場所 気象庁観測部会議室

出席者 岸保, 浅井, 内田, 植村, 奥田, 神山, 関根,
新田, 松本, 増田, 山下

報告〔庶務〕

- 12月13日, 朝日新聞社から, 昭和55年朝日学術奨励金について案内がきた(締切2月29日)。
- 12月15日, 日本学術会議会長から, 1980年度に本会議から派遣を希望する学術関係国際会議および派遣候補の推薦について依頼があった(締切1月21日)。
- 12月15日, 日本科学者会議代表幹事(三宅泰雄, 山崎不二夫両氏)から, 郵便料金に関する要望書提出にあたってのお願いがきた。
- 12月21日, 第21期選挙管理委員長鯨井孝一氏から, 委員会のメンバーおよび役員選挙の日程について報告があった。

〔会計〕

- 会費は順調に入金してきており, 12月24日現在, 1,030万円である。
- 文部省補助金217万円を12月24日入金した。なお, 55年度申請書類は, 文部省に12月上旬提出し受理された。

〔天気〕

永年「天気」を印刷納入しているのは三報社であるが, この際他の数社の印刷所も検討してみたい。55年1月末日までには結論を出す。

〔講演企画〕

55年春の大会のシンポジウムは「リモートセンシングと気象」を取り上げることにして, 司会は小平信彦氏にお願いしたい。

議 題

1. 評議員との懇談事項について

- (1) 財政の見直しについて ア. 54年1月から会費を値上げしたが余りプラスになっていない。イ. 会員は, 260名増加して4,175名となった。また, 賛助会員は6社(41万円)の増加があった。ウ. 「気象研究ノート」は, 収入増が期待できるので年間なるべく多く刊行されることを望みたい。エ. 支出の面では, 事務の能率化をはかり諸経費の節約に努めたい。オ. 100周年記念事業実施の

ための経費として準備資金を積立ててゆきたい。カ. 諸情勢からみて, 56年1月から値上げを考慮せざるを得ないだろう。

- (2) 100周年記念事業について 10月24日に福岡で行なわれた全国理事会で提案した記念事業案を多少修正して評議員会の資料とすることを了承。

2. その他

- (1) WMOへ12月に出張した新田理事からWMOにおける非公式打診として次のとおり報告があった。(a) CAS(大気科学委員会) 天気予報研究作業委員会(Working Group on Weather Prediction Research)の委員長ベンツオン(Bengtsson)博士より1982年に日本で天気予報研究(ないし数値予報)のシンポジウムを開かないか(気象学会後援の形?)。(予算がとってあるのでWMOとしても費用を分担することができる)。(b) WWW(世界気象監視)部長ウァイス(Weiss)博士より1981年にRegional Technical Conference on Tropical Meteorologyを日本気象学会と共催(アメリカ気象学会等も入ってよい)で開かないか。気象庁以外の気象関係者にも入ってほしい。(予算は2万ドル。speakerの招待費用, 一部出席者の滞在費など出せる。Proceedingを印刷刊行したい)。もし, 1982年に開く場合は, 話は延期され, 改めて検討することになる。

- (2) 11月29日~12月1日に八王子セミナーハウスで開かれた国際統計気候学会議について, 内田理事から次のとおり報告があった。

参加者は外国人25名, 日本人25名, 計50名で, 初めての開催にしては非常によかった。なお, 2~3年後ヨーロッパ(ポルトガル)で開催される予定である。

- (3) 「気象研究ノート」の編集委員について 奥田理事から, 気候変動関係担当として長期予報課の久保木光熙氏を追加したいとの発言があり承認された。
- (4) 理事長から, 100周年記念事業についての気象庁の窓口は企画課長の関口理郎氏であるとの報告があった。
承認事項 渡辺 忠ほか13名の新入会員を承認。